

第3章 本県農業の目指すべき未来像

1 目指すべき姿

本県の基幹産業である農業の成長産業化を図るためには、生産者が豊かさを実感できることが何よりも重要であるため、「生産者の所得の向上」を本計画の目指すべき姿とします。

《将来の姿（20年後）》

- 県オリジナル品種や新たな需要につながる新品目、特色のある商品等の開発・普及が進み、競争力のある産地が形成されるとともに、「やまなし」ブランドとして国内外で高く評価されています。
- 地域に適応したデータ農業技術やスマート農業技術が広く普及し、生産性が大幅に向上するとともに、匠の技が継承され、高品質な農畜水産物が生産されています。
- 産地から消費者まで品質・鮮度を保持した流通体制が構築され、高品質な本県産農畜水産物が国内外で広く流通しています。
- 環境に配慮した農業が広く実践され、CO₂の削減や化学肥料・化学合成農薬使用量の低減等が進むとともに、物価高騰にも対応した持続可能な農業への転換が進み、農業経営の安定化が図られています。
- 本県の特色ある農畜水産物等が県内のレストラン等で提供されるとともに、加工品の製造・販売も県内で行われています。
- 4パーミル・イニシアチブやアニマルウェルフェアをはじめとする時代の変化を先取りした特色ある取り組みにより、高付加価値化が図られ、多くの消費者から選ばれています。
- 日本の農畜水産物を輸出できる国が拡大し、本県産農畜水産物の品質の高さが海外でも浸透し、多くの国の人々に選ばれています。
- 戦略的かつ効果的なプロモーションにより、国内外で「やまなし」がハイクオリティな農畜水産物のブランドとして確立され、高価格で安定的に取り引きされています。
- 多くの就農希望者が本県の農業に魅力を感じて就農し、ニーズに応じた切れ目ない就農支援制度により地域へ定着しています。
- 農泊やワーケーション等を通じて山梨の魅力が全国に知られるとともに、半農半Xや定年後の就農者、都市住民など、多様な人材が農村地域で活躍し、地域が活性化しています。
- 戦略的な基盤整備の実施により、企業の農業参入が進むとともに、担い手等への農地の集積や集約化が進むことで、農地の有効活用が図られています。

- 野生鳥獣の侵入防止施設の整備・管理に加え、ICTを導入・活用した対策等の先進的な鳥獣害防止対策の普及が進み、野生鳥獣による農作物への被害が大幅に減少しています。
- 農業用水利施設や土砂崩落防止施設の整備など、防災・減災対策が進み、農村地域の強靱化が図られ、農村地域における安全・安心が確保されています。

2 目 標

「生産者の所得の向上」を実現するため「農畜水産物のブランド価値の向上」と「生産基盤の更なる強化」の2つの目標を掲げ、次の5つの柱に分類した施策に関係機関と一体となって取り組んでいきます。

- I 農畜水産物のブランド価値の向上
 - 1 生産・流通・販売の三位一体の高度化
 - 2 戦略的ブランドプロモーションの展開
- II 生産基盤の更なる強化
 - 3 明日の農業・農村を担う人財づくり
 - 4 農村地域の保全と基盤整備
 - 5 防災・減災対策による農村の強靱化

3 重点施策

生産者の所得向上を実現するためには、効果的なプロモーションにより国内外に「やまなし」ブランドを浸透させるとともに、更なる高品質化と高付加価値化を推進することが不可欠です。また、農業の成長産業化を図るために、地域を支える多様な担い手の確保・育成を進めるなど、更なる生産基盤の強化が必要となります。こうしたことを踏まえ、次の3つの施策に重点的に取り組んでいきます。

- ①「やまなし」ブランドの確立
- ②高品質化と高付加価値化の推進
- ③担い手の確保・育成と生産基盤の整備